
その、桜色の世界の中で

ポン太

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

(前書き)

えーいつも通りツツコミ所満載ですがなにか？ご意見とか聞かせてくれれば幸いです(酷評もおk。でもスレ内ではほかの書き手さんの迷惑になるのでこっちをお願いします)

まだ少し寒いが気持ちのいい陽射しの中を二人で歩く

「で、どこだっけ？」

「まだ結構先ですけどこのまま真っ直ぐ行けばあるはずですよ」

今日は陣代高校卒業式

お世話になった先輩に挨拶をし早々に下校

で、その足でデートがてらカティアの買物に付き合っている

「統夜くん？」

突然呼ばれて振り向く。

「・・・先輩？何でこんな所に？」

柔かな桜色の振袖を着たその人は二年前より長くなった髪を風になびかせながら同じ様に微笑んでいた

先輩は近くの地下鉄に乗るらしく方向が一緒なので歩きながら話す

「お久しぶりです、どうしたんです？こんな所でそんな恰好で」

「私の短大すぐそこだから。でもって卒業生で卒業式だったんだよ」

ああ、と頷く。最後にあつたのが二年前ぐらい

それから色んな事があり過ぎて正直忘れていた

「あーあ、統夜くんにととうと彼女出来たか。ずっと狙ってたのに」

”先輩”がいたずらっぽく言う

「冗談はやめてくださいよ。カティアも真に受けない」

統夜の言葉でえ？え？とおろおろしているカティアは胸をなでおろす

「変わらないね。相変わらず冷静なんだから」

「お褒めに預かり光栄ですよ」

先輩の皮肉ともつかない言葉を統夜はそのまま返す

「ねえ、カティアちゃん？」

「はい？」

「告られたときどんな感じだった？あ、もしかして告った方？」

「あ……えと、」

カティアは口ごもる。恥ずかしいからという訳では無く、まるで遠慮しているかのように

「まったく、そんな事聞かないで下さいよ」

呆れたように喋る統夜

「私が告った時もそうだったな。表情一つ変えなくて」

うん、と一人頷く先輩

「ごめん……って」

「結構傷ついたんだからね」

あはは、と笑う先輩

「そうでしたっけ？」

とぼけた感じで答える統夜

「そうそう、あの時だって」

「どうした？カティア」先ほど ちょうど先輩と会ったあたりから
黙り込んでしまったカティアに声をかける

「別に何もありませんよ？」

と答えるだけだった

「じゃ、私はここで」

地下鉄の入口で立ち止まる

「判りました。ではまた会う時に」

では、と統夜は歩き出す

カティアもそれに続こうとし

(カティアちゃん)

町の喧騒の中、トーンを落とした声

うっかり聞き落としそうになるその声でカティアは振り返る

ふわりと香るやわらかな香り

(統夜くんをよろしくね?)

そうカティアに耳打ちするとそれじゃ、と地下鉄へ消えて行った

先に行つた統夜に小走りで追い付く

「どうかしたのか？ずっと黙つて」

先に行く統夜が振り向かず問い掛ける

「別に・・・何もありませんよ」

「何でもないのでそんな暗い顔しないでろ」

見透かすように、諭すように

今だ振り返らない統夜は言う

「別に・・・ただ・・・」

ゆっくりと

「色んな統夜を知つていて、一緒の思い出も一杯あつてなんか羨ま

しいな・・・つて・・・」

カティアは言う

「なに言つてんだか。それじゃカティアとの思い出が無いみたいじ

やないか」

呆れたように統夜が呟く「そんな事は」

カティアの言葉を遮るように統夜は続ける

「それに、これからいくらでも作ればいい。ずっと一緒だろ？」

肩越しに振り向く統夜

その笑顔が眩しくて

その言葉が力強くて

思わず統夜の腕に抱きつくカティア

(でも・・・それだけじゃ無いんだけど)

「何か言つたか？」

呟きが聞こえたのか問い掛ける統夜

「何も。そうだ、統夜目的の変更です」

「へ？だつて店もうすぐ・・・」

「気が変わりました。」「あのなあ・・・で何処ですか？お姫様？」

カティアがいたずらっぽく笑う

「先輩見てたら着物、着たくなつちやいました」「ええ？」

驚く統夜

「さあ、思い出作りにいきますよ」
戸惑う統夜を引っ張って
カティアは歩き出した

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7098b/>

その、桜色の世界の中で

2010年11月12日07時26分発行